

団体名：特定非営利活動法人 くじら

取組地域：愛媛県 八幡浜市

取組名：認知症啓発、健康相談、地域のつながり

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供		居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

☆ 多世代	こども・若者	中高年者	★ 高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	☆ 単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

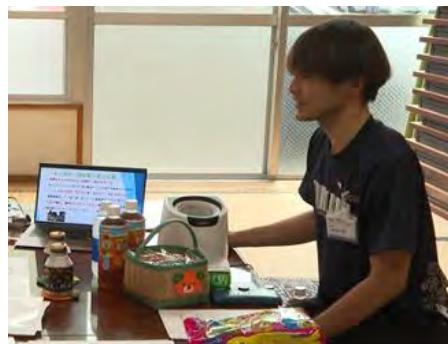
(1) 取組の内容

目的	認知症や健康をテーマに地域住民が気軽に集まり悩みを共有できる場を提供することで、住民同士の相互支援を促進するとともに、孤独・孤立の解消を目指した。特に高齢化と人口減少が進む地域において、認知症を抱える当事者が孤立せず地域全体で支え合う仕組みを構築することに重点を置いた。
対象とした人	認知症の人やその家族、一人暮らし高齢者等、地域とのつながりが希薄になりやすい住民を主な対象とし、課題の有無に関わらず地域住民全体を巻き込んだ活動とした。
内容	<ul style="list-style-type: none">・ 認知症啓発活動：定期的な認知症カフェを開催し、住民が気軽に参加できる場を提供した。地域住民が日常的に集まるよう、定期的なイベントを開催し、趣味や食事を共にする機会を増やした。・ 健康相談・啓発：認知症だけではなく、身近な健康についての相談と啓発に取り組んだ。様々なツールを使い、ウォーキング、握力、体重変化、ツボ押し、生活習慣病等、身近な健康について参加者へ説明した。・ 離島での活動：離島の大島においても活動を実施した。住民には、医療サービスを利用しにくい離島という環境ゆえに抱える不安があるが、地域おこし協力隊の方等と連携して地域のつながりの重要性を発信した。

(2) 取組の成果

連携した団体	地域包括支援センター、医療機関、社会福祉協議会、地元のNPO法人と連携し、情報交換を行ながら支援の幅を広げた。特に行政とは、地域住民への認知症啓発の推進や支援体制の強化に協力して取り組んだ。
対象とした人とつながるために行った工夫	<p>認知症当事者やその家族、一人暮らしの高齢者等、孤独・孤立のリスクが高い人々とつながるために、対象者が関心を持ちやすいテーマや日常の楽しみにつながる活動を重視した。例えば、健康相談会では血圧測定や歩行習慣のアドバイスを通じて健康意識を高めるきっかけを提供した。認知症カフェでは音楽療法や回想法を取り入れ、会話のきっかけを生み出した。また、以下のような工夫も取り入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民にとって馴染みある地域の公民館を会場とし、気軽に立ち寄れる雰囲気を作った。 ・地域CATV八幡浜市の広報を活用し、対象者や家族に情報が届くようにした。 ・リピーターとの関係を大切にするため、過去の参加者に個別に声をかけることで継続的な参加を促した。 ・行政や介護施設、地域包括支援センターと連携し、地域の中で支援を必要としている人を紹介してもらった。
定性的な成果 定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・事業開始前は認知症の症状に対する不安や介護疲れ、社会とのつながりの希薄さが課題となっていたが、定期的な認知症カフェや健康相談を実施することで、参加者が気軽に情報を得られる場が生まれた。 ・相談の中で「以前は誰にも相談できずに不安だったが、ここに来ることで気持ちが楽になった」、「参加を続けるうちに顔見知りが増え、話す機会が増えた」等の声が聞かれた。また、健康相談を通じて「血圧管理や歩行習慣を意識するようになった」等、生活習慣に関する意識改善も見られた。 ・地域住民やボランティアとの交流を通じて、高齢者同士の助け合いの意識や、見守りや声かけの重要性を共有できた。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 くじら
代表者	中川 智也
設立年月日	2022年8月10日
スタッフ数	16人
団体住所	愛媛県八幡浜市五反田1番耕地106番地3F
ウェブサイト	https://www.kujira.biz/
メッセージ	小さな活動でも続けることで地域に変化を生み出します。私たちもまだ試行錯誤の段階ですが、地域の声を聴きながら柔軟に取り組むことが重要だと感じています。今後も行政・企業・住民と連携し、持続可能な支援の形を模索していきます。人と人が支え合える社会を共に創っていきましょう。

団体名：一般社団法人 ハンズオン

取組地域：高知県 高知市

取組名：コミュニティスペースを拠点とした中高生のキャリア自律を目指したソーシャルサポートネットワーク形成プロジェクト

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供		☆ 居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

多世代	★	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援		

(1) 取組の内容

目的	持続可能なキャリア支援の場の構築 中高生・大学生の参加促進とサポートネットワークの拡充 地元企業・起業家との連携強化
対象とした人	進路やキャリアの選択に迷っている中高生・大学生 地域や社会とのつながりが希薄な若者 アントレプレナーシップを育みたい若者
内容	キャリア支援のためのワークショップ・イベントの開催：地元の企業経営者や起業家を招いたトークイベントの開催、参加者同士が将来のキャリアについて考え対話するワークショップの開催 教育関係者や大学生による継続的なサポート：やりたいことに対してのアイデアについて壁打ちを実施できる相手の紹介 企業・地域社会との接点づくり：地元企業の経営者や社会人とのネットワーキングイベントの開催、有識者を招いた講演イベントの開催

(2) 取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	高知大学：これまでのキャリア支援活動を通じたつながりにより、大学がメンター育成をサポート 地元企業：地元企業の若手経営者や人事担当者と協力し、キャリアイベントを実施 県外企業：県外企業が高知に訪問するタイミングでのイベントの実施や、生徒・学生・保護者との交流の場を設定 行政機関（高知県・高知市）：環境づくりへの理解促進や、広報のサポート
対象とした人とつながるために行った工夫	対象者とつながるために、学校や家庭とは異なる「第三の居場所」として機能する場を提供することに注力した。中高生が抱える進路やキャリアの悩みは、親や担任には話しにくい場合が多いため、他の教育機関の関係者と話せる機会を提供することを意識した。「斜め関係」を構築することで、中高生が無理なく会話に参加でき、キャリアについて考えていることを話す機会が自然と生まれるようにした。 また、SNSで情報発信をすると同時に、口コミで友達を連れてくるような仕組みを構築した。イベントは学校や塾のような「学ぶ場」ではなく、コワーキングスペース・イベントスペース等、リラックスした雰囲気の中で開催した。ワークショップのテーマも「失敗談」や「これまでの人生で大切にしていること」等、共感しやすい内容を設定することで、初めての参加者でも入りやすい雰囲気を作った。
定性的な成果 定量的な成果	中高生の変化：メンターとの定期的な交流が、進路やキャリアについて話せる機会になった。プロジェクトの壁打ちをしていた高校生からは、学校内の探究活動の事例発表において、最優秀賞をとることができたとの報告を受けた。地元企業の経営者や社会人と直接対話する機会ができ、「高知でも面白い仕事があると知った」「将来の選択肢が広がった」という意見が出た。また、クラウドファンディングについての勉強会に参加した高校生たちは、そのつながりを活かして、支援のお願いをしたり、地元企業を知る機会ができたことで、普段の行動が変化はじめた。 大学生の変化：起業家や社会人とのミートアップを通じて、具体的なキャリアイメージを持つようになった。ワークショップを通じて、自分の強みややりたいことを整理する機会になった。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 ハンズオン
代表者	(共同代表) 野崎 浩平 / 原 亮
設立年月日	2022年3月9日
スタッフ数	3人
団体住所	高知市はりまや町1-2-12 1階 Kochi Startup BASE 内
ウェブサイト	https://hand2-on.org/
メッセージ	私たちは、若者の孤独・孤立を防ぐために、教育関係者がメンターとなる仕組みを確立し、学校・地域・企業をつなぐ「社会のハブ」としての役割を果たしたいと考えています。孤独・孤立対策は、単なる福祉活動ではなく、地域の未来をつくる取組です。共に新たなモデルを生み出し、未来へつなげていきましょう。

団体名：NPO 法人 抱樸

取組地域：福岡県 北九州市

取組名：多様な主体の「やりたい気持ち」を叶えることを通した地域づくり

取組の種類

1. つながりの場づくり	
交流の場の提供	居場所づくり
食を通じたつながり	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築	
地域の包括的見守り体制の構築	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援	
ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築
情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組	
買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化	
☆ 地域の NPO 等への支援	★ 官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

★ 多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	住民や地域の活動の発掘・開拓とつなぎを行う地域コーディネーター（CO）の仕事として、①新規のつながりの創出、②既存団体等とのつながりの創出、③既存団体同士や個人同士のつながりの創出、④多様な主体の「やってみたい」ことを叶えるための調整やサポートの実現を目指し、事業を実施することとした。
対象とした人	希望のまち予定地の生活圏域の 4 校区を中心に、北九州市全域の住民を対象とした。 ※「希望のまちプロジェクト」：福岡県北九州市に様々な機能を持った複合型社会福祉施設を建設し、そこを拠点にコンセプトとしての「まち」を広げていくことを目的としたプロジェクト。
内容	CO として、地域の団体が実施したいと考えていた以下のイベントの実現をサポートした。 <ul style="list-style-type: none">・地域の高齢者グループで小倉炭鉱や郷土史を語り継ぐ活動をしている会と、20～30 代を中心とした地元で活動してみたいと思っている若手クリエイター集団を CO がマッチングさせ、「小倉炭鉱」をキーワードに、小倉の歴史や文化と、ダンス・音楽を融合させたマルシェイベントを実施。・デザイナー 2 人を支援し、手縫い体験を通して身近な物作りに触れるイベントを小倉城庭園で実施。・PTA が主催となり、「大人としゃべり場＝トークフォーカンス」という形式で、中学 3 年生と地域の大人が対話をするイベントを実施。イベント準備・広報にあたり CO がサポート。

(2) 取組の成果

連携した団体	近隣 4 校区の市民センターや自治会、行政、教育機関、社会福祉協議会、フードバンク、こども食堂、福祉関係者、北九州市立大学、近隣の飲食店、企業、クリエイター、アーティスト、北九州市内の市民活動団体等の団体が抱える課題に寄り添い、多様な団体が主催するイベント等の企画・運営・コーディネートをサポートした。
対象とした人とつながるために行った工夫	「楽しそう・おしゃれ・かっこいい」等の視点を大切にしながら活動を行うことで、普段は福祉にはつながらない層にも興味を持つもらい、場や集まる人が多様となるよう意識した。特に文化、芸術等の多分野と連携した取組を充実させることを意識した。
定性的な成果 定量的な成果	CO が主催者の意図を汲みながら一緒に企画を考えていくことで、多様な主体の「やりたいこと」が具体化し、主催者だけでは結びつかなかった場所（文化財や所有地等）や多様な主体（若者、小学校や自治会）とのつながりが生まれた。 また、事業を通して主催者の想いややりたい活動が可視化されることで、主催者の経験値が上がり自信もついた様子が伺えた。活動に賛同して新たに参加する人が増えたり、主催者が活躍できる場が増えた。 活動を通して、「支える側」「支えられる側」という関係を超えて、住民同士、住民と社会がつながり、一人ひとりに役割と出番があることで支え合いながら暮らしていくことのできる包摂的な社会が少しずつ創造されていると感じる。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	認定 NPO 法人 抱樸（ほうぼく）
代表者	理事長 奥田 知志
設立年月日	2000 年 11 月 22 日
スタッフ数	120 人（うち正従業員・有期雇用従業員 89 人、パートタイマー 31 人）
団体住所	〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田 2-1-32
ウェブサイト	https://www.houboku.net/
メッセージ	多様な主体のやりたいことを応援するには、日頃から関わりを持っておくことが重要だと感じました。また CO として、企画の実施をするにあたり「楽しそう・おしゃれ・かっこいい」等の視点を大切にしました。今後も福祉的な視点は持つつ、多くの人が「参加したい・やってみたい」という気持ちになるような工夫をしていきたいと考えています。

団体名：特定非営利活動法人 あいむ

取組地域：福岡県 福岡市

取組名：孤立するこども・若者への早期アウトリーチと居場所づくり

取組の種類

1. つながりの場づくり		
	交流の場の提供	★ 居場所づくり
	食を通じたつながり	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築		
	地域の包括的見守り体制の構築	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援		
	ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組		
	買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化		
	地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

多世代	★	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	☆ 薬物依存等を有する人	支援者支援

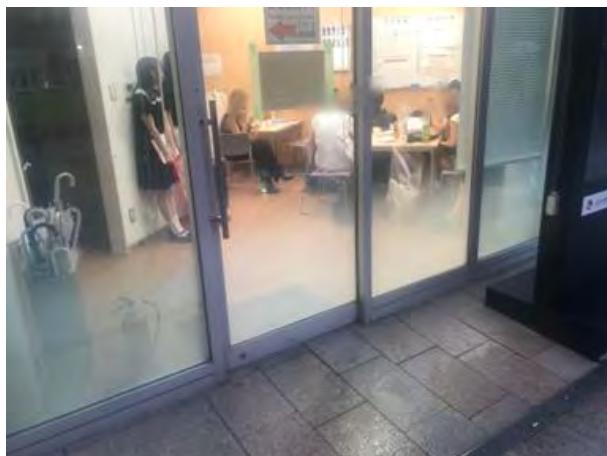
(1) 取組の内容

目的	福岡市の繁華街にある警固公園等に集まる若者たちの中には元々家庭環境に課題がある場合もあって、学校にも居場所がなく社会制度にもつながっていないため、犯罪に巻き込まれてしまうケースも多い。行政や警察関係者も課題に対して十分に取り組めておらず、取り残された子どもたちをサポートするため、本事業に取り組み始めた。
対象とした人	福岡市天神にある警固公園等の繁華街には、子ども・若者が集まっており、いわゆる「ト一横キッズ」の福岡版のような状況にもなっている。元々家庭環境に課題があり、学校にも居場所がなく社会制度にもつながっていない場合もあって、犯罪に巻き込まれてしまうケースも多い。
内容	警固公園に集まる子ども・若者たちは、家や学校に居場所がなく（時に学校に通っていない）、居場所を求めて友達に会いに来たり、暇つぶしで公園に来たりしている。その子ども・若者たちに生活のこと等を相談できる身近な「大人」としてアプローチをした。具体的には、お金がなく、お腹をすかせた子ども・若者への声掛け、お菓子やおにぎり等の配布を行い、リーチした子ども・若者との信頼関係を強化し、支援につなげていくための居場所での食事やお菓子の提供をした。子どもたちは夜も公園に来ているので、夜の見守り活動も行った。

(2) 取組の成果

連携した団体	福岡市若者支援団体ネットワーク、一般社団法人ソーシャルワーク・オフィス福岡（社会福祉士や心理相談の連携）、特定非営利活動法人そだちの樹（そだちの樹が持っている若者向けの日中の居場所を紹介）、NPO 法人 SFD 21 JAPAN（非行に関して）、NPO 法人青少年の自立を支える福岡の会（社会的養護）
対象とした人とつながるために行った工夫	急に声をかけると嫌がられることがあるため、最初のうちは挨拶だけをしたり、その若者の周辺にいる若者に声をかけて、徐々に接触をはかるようにした。どこに力点を置けば、こども・若者たちへアウトリーチでき、上手くケースマネジメントにつなげることができるかを深く考えることで、「よき相談者」として位置づけられるよう工夫した。対象者とつながり続ける工夫としては、ライン等の SNS を交換したり、相談カード等を渡したり、当事者からの連絡を受けやすくすることで、つながり続けることができた。
定性的な成果 定量的な成果	本事業の期間内の約 6 カ月で、居場所の利用者 351 人、夜回りで出会ったこども・若者 616 人と接点を持つことができた。特に、居場所に来た 17 歳の被支援者からは、「あいむのフリースペースがきっかけで僕、本当に変われたんです。感謝しています」と言われた。何がそんなに良かったのかを質問すると、「あの時の自分は生活が乱れまくって精神的にも余裕がなかったから、フリースペースの空間がとても安心できた。みんながニコニコご飯食べたりして過ごしていて、こんなにあったかい場所があることに救われた」と話していた。彼は居場所を利用していた当時は家庭でも学校でも孤立していたが、約半年間、面談を行い、状況が改善した。 スタッフが少ない中で、状況が深刻なこども・若者の対応をすることに苦労をした。支援者自身が影響されることも多く、スタッフの研修を行ったり、交代で対応をするようにした。振り返りの時間を多く設けることで、そのフォローをするようにした。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 あいむ
代表者	藤野 莊子
設立年月日	2019 年 9 月(法人設立は 2023 年 5 月)
スタッフ数	4 人
団体住所	福岡県福岡市中央区大名 2-10-4 シャンボール大名 D-406
ウェブサイト	https://aim-ibasho.org/
メッセージ	当団体は孤独・孤立の課題を抱え、繁華街に集まくるこども・若者たちへの支援をしているが、早期にアウトリーチし、そこから、いかに伴走支援につなげるかにハードルを感じた。本事業でこども・若者たちとの距離感をつかむことができたと感じているので、今後は、保護者の支援にも力を入れていく予定である。

団体名：一般社団法人 えふ

取組地域：佐賀県 唐津市、玄海町

取組名：日常の中での様々な世代の交流・居場所の提供

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供	☆ 居場所づくり		
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

多世代	★ こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	☆ ひとり親世帯	☆ 単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	こども宅食のエリアの拡大を進めることを軸に、地域に住む多様な人々がフラットな関係でつながり、孤立感の軽減とサポートの輪を広げることを目的としている。具体的には、孤立している家庭に対して、人と社会との接点を創出する地域の人々が集まるイベントを通じて、相互に支え合い、協力する環境を作ることを目指している。
対象とした人	「孤立を感じている地域住民全般、特にひとり親家庭」、「経済的・精神的な困難を抱え、サポートが必要な方」、「不登校のこども」、「学校に通うことが困難な状況にあるこどもたちとその家庭、生活に困窮している人々」、「こどものいる家庭、子育て世代」、「こどもを育てながら社会的孤立を感じている家庭」を対象にしている。
内容	食支援：経済的に困難な状況にある家庭やこどもたちに対し、定期的に食品や日用品を配布する。 教育・学習：地域資源を活用し、自然教育と学習の場を提供している。コミュニティガーデンや古民家を活用し、地域住民（特にこどもや不登校のこども）と共に活動を行うことで、参加者が自然と触れ合いながら学ぶ環境を作り出している。 地域交流：地域イベント（例えば、「マルシェ」、「流しそうめん」や「ハロウィン」イベント）を開催し、地域住民が一体となって楽しむ機会を提供した。これにより、参加者間で新たなつながりが生まれ、孤立を感じることなく、互いに支え合う環境が整った。

(2) 取組の成果

連携した団体	市の社会福祉協議会、児童発達支援事業所、行政機関、学校、地域の農家/企業
協力いただいた団体	事業を広げるために、地域の福祉機関や行政と協力し、支援が必要な家庭への情報共有を含むサポートや地域イベントの共同開催を行った。
対象とした人とつながるために行った工夫	<p>地域住民との交流促進：活動を通じて、当初対象としていなかった地域住民とも自然な形で交流が生まれた。これにより、地域全体のつながりが強化された。</p> <p>多世代間の交流：子育て世代と高齢者が共に参加するイベントを企画し、世代を超えた交流の場を提供した。これにより、相互理解と支え合いの精神が育まれた。</p> <p>感情への配慮：対象者の感情や心理状態に敏感に対応し、安心感と信頼感を築くことを心掛けた。</p>
定性的な成果	年間総参加者数：一連の活動には年間約 3,000 人以上の地域住民が参加し、コミュニティの活性化に寄与した。主な活動は以下の通りである。
定量的な成果	<p>【子ども宅食活動】定期的な関わり：毎月 15 世帯の家庭に対し、食品や日用品のお届けをきっかけに、困りごとのサポートを行っている。</p> <p>相談対応：各月 10～15 件の相談を受け付け、必要な支援へつなげている。</p> <p>【コミュニティガーデン、古民家（居場所）、イベント開催等】活動頻度：週に 1 度のペースで開催し、地域交流の場を提供している。</p> <p>参加者数：各回平均 10～15 人が参加し、継続的な関与が見られる。</p>

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 えふ
代表者	共同代表 灵山 侑菜、前川 淳子、井上 莉穂
設立年月日	2023 年 12 月 27 日
スタッフ数	3 人
団体住所	佐賀県唐津市鎮西町打上 3202
ウェブサイト	https://www.e-fu.net/
メッセージ	<p>孤独・孤立の課題は、一つの団体だけでは解決できません。だからこそ、地域や分野を越えてつながり、知恵や経験を共有しながら支え合うことが必要です。小さな一步の積み重ねが、大きな変化につながります。</p> <p>同じ想いを持つ皆さんとともに、誰もが安心できる社会を築くため、支え合えることを願っています！</p>

団体名：特定非営利法人 くまもと災害ボランティア団体ネットワーク

取組地域：熊本県 熊本市及び近隣市町村

取組名：安心して暮らせるための地域共生社会の実現に向けた包括的な支援

取組の種類

1. つながりの場づくり		
	交流の場の提供	居場所づくり
	食を通じたつながり	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築		
	地域の包括的見守り体制の構築	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援		
	ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組		
	買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化		
★	地域の NPO 等への支援	☆ 官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	★ 被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	☆ 支援者	支援

(1) 取組の内容

目的	孤立しそうな人たちの困りごとは、自殺と同様に問題が複合的に存在するため、相談窓口に行っていてもたらい回しになり諦めている当事者が多い印象を持っている。このため、複数の専門家が連携して支援プランを考えられる体制が望ましく、当事者がたらい回しにならないための「ワンストップ窓口」やアセスメント力を持った専門相談員の強化及び団体間の連携強化が必要と考えた。
対象とした人	熊本市と民間支援団体（ほとんどは熊本地震を契機に連携構築したもの）を対象とした。
内容	孤立しそうな人を気軽に参加できる「場の提供」につなげることが必要である。当団体が主催するネットワークには、そのような支援活動を行う団体も含まれており、緊急時の SOS に対応できる支援団体（シェルター支援や食糧支援、医療や制度につなげることができる団体）もある。相談者の困りごとは複合的な課題を有している場合が多く、複数団体での情報共有が必要であることから、熊本地震後、民間支援団体間の情報共有と連携が続けられてきた。その延長線上で、孤独・孤立対策として熊本市と民間支援団体による官民連携プラットフォームを構築した。

(2) 取組の成果

連携した団体	熊本市、民間支援団体等と連携し、孤独・孤立対策に関する官民連携プラットフォームを作り、民間支援団体の活動状況を情報共有し、とりまとめた。
対象とした人とつながるために行った工夫	孤立状態にある、もしくは孤独を感じている人は、こころとからだの健康リスクが高いという調査結果が報告されている。熊本では、災害により地域を離れ仮住まい先で恒久的に暮らすこととなる被災者も多く、地域に溶け込めないことが孤独・孤立の一つの要因となっていることを理解した上で事業を実施した。 また、孤独・孤立対策に関する官民連携プラットフォーム参加団体との連携を継続的に強化し、SNSによる相談窓口を熊本市のホームページに掲載してもらう等の協力体制を確立した。
定性的な成果 定量的な成果	熊本市と連携し、24 時間体制の相談窓口を開設し、相談に対して 12 時間以内に回答を行った。ワンストップ窓口（こどくりつ相談@熊本）を当団体ホームページと熊本市ホームページに掲載して周知を図った。 応答率は 100%であった一方、ホームページ掲載後の相談件数が 1 件と極端に少なかったため、熊本市、プラットフォーム団体とも合意の上、本事業終了後も継続して相談を受け付けることとした。 本事業において、行政だけでなく社会福祉協議会、大学や支援団体を巻き込んだプラットフォームで対応する仕組みづくりができたため、相談受付を官民連携して継続することとしている。また、対象としている人たちに窓口の情報が届くよう、周知方法も今後の課題として検討していく。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 くまもと災害ボランティア団体ネットワーク【KVOAD】
代表者	代表理事 樋口 務
設立年月日	2016 年 10 月 22 日
スタッフ数	3 人
団体住所	熊本市中央区南千反畠町 3-7 熊本県総合福祉センター1 階
ウェブサイト	https://www.kvoad.com/
メッセージ	熊本地震時の影響が現在まで持続し、被災した人はより孤立状態に陥る可能性があると改めて認識した。熊本地震を契機にできた連携の強みを活かして孤独を感じている人を支援するスキームができた。今後も多様な団体が連携して支援する仕組みを維持しつつ、支援者も 1 人で抱えないでよい環境をさらに構築していきたい。

団体名：HAPPY PARK プロジェクト

取組地域：熊本県 熊本市

取組名：商店街でつながろう！わくわくと安心を育むコミュニティづくり

取組の種類

1. つながりの場づくり	
交流の場の提供	居場所づくり
食を通じたつながり	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築	
地域の包括的見守り体制の構築	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援	
★ ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築
情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組	
買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化	
地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

★ 多世代	☆ こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	本事業では、地域の人が多く利用する「健軍商店街」というオープンスペースで、相談ブース×子どものわくわく体験×マルシェ（自主事業）という形のイベントを開催することで、地域の人にとっての安心とつながりのきっかけを提供し、地域活性化にも貢献していく。
対象とした人	健軍商店街周辺、及び熊本市内の女性・子ども・若者・家族を対象とした。
内容	「つながるハピバ in 健軍商店街」を 11 月 30 日、12 月 1 日の両日にわたって実施し、女性や子どものためのつながる場として、延べ 10 の無料相談ブースを設けた。具体的には労働局や法律相談、カウンセラー、子どもの不登校や子育て支援、ヤングケアラーや性の悩み等、多岐にわたる専門家の協力を得て無料相談を実施した。また、木育体験・スケートボード体験・ボードゲーム体験の場を用意し、幅広い世代の来場者にわくわく楽しみながら交流してもらう場を設けた。自主事業のマルシェと相談窓口を同時に開くことで、相談につながりやすく、新たなつながりづくりのきっかけとなり、商店街が人々の安心できる居場所となっていく。結果として日常的に孤独・孤立を防ぐ効果が期待できる。

(2) 取組の成果

連携した団体	イベントに際し、熊本県、熊本市、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社、RKK 熊本放送、TKU テレビ熊本、KKT 熊本県民テレビ、KAB 熊本朝日放送、FMK エフエム・クマモト、FM791 熊本シティエフエムからの後援を受けた。健軍商店街振興組合にも協力をいただいた。
対象とした人とつながるために行った工夫	イベントの開催を知ってもらうため、保育園、幼稚園、小学校、中学校の計 39 か所（健軍商店街から 1.2km 圏内）にフライヤーを郵送し、配布を依頼した。商店街店舗 51 か所、近隣公共施設 16 か所、相談受託団体 10 か所にもフライヤーを置かせてもらい、ポスター掲示を行った。フライヤー配布数は約 9,500 枚、ポスター掲示数は約 100 枚にのぼった。その他、SNS やインターネットを通じた発信や、外部アカウント（例：熊日 Web 版お出かけ情報等）への投稿も積極的に実施した。
定性的な成果 定量的な成果	イベント全体の 2 日間で約 7,500 人が来場した。また、高校生・大学生に対し、ボランティアとして活躍する場を提供した。ボランティアの仕事内容は受付や見守り、ガイド役等の活動で、体験コーナーの運営、会場全体の来場者アンケートの声掛け等も行ってもらった。ボランティア参加人数は、2 日間で延べ 67 人(50 人参加、うち 14 人は 2 回参加で、1 人は 4 回参加。内訳:高校生 32 人、大学生:18 人)だった。 イベント時に行ったアンケートの結果によると、相談利用者からは高い満足度を得られており、専門家に悩みを相談することが、それぞれが抱える課題解決に重要な役割を果たすとともに、安心して暮らせる地域づくりのためにも必要不可欠であると感じられた。 ターゲットと想定していた 20~50 代以外の高齢世代や男性の来場者も多く、「通りすがり」にイベントに参加する方多かった。このように様々な層の人にアウトリーチすることができたのは、「商店街」という場所の特性であり、イベント会場等での開催では得にくい効果といえる。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	HAPPY PARK プロジェクト
代表者	代表 小田川 望
設立年月日	2018 年 11 月 22 日
スタッフ数	5 人
団体住所	熊本県熊本市東区湖東 2 丁目 33-3
ウェブサイト	https://happyparksmile.jimdofree.com
メッセージ	地域住民の巻き込みや、団体・企業・行政との連携により、みんなが抱える課題である孤独・孤立の問題をみんなで解決していく体制作りを行い、地域全体も一人ひとり元気になれる。そんなイメージを持っていきたいです。

団体名：NPO 法人 子育て応援ワクワクピース

取組地域：大分県 大分市

取組名：困った時、誰でも、いつでも来れるみんなの居場所ワクワクピース

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供	☆ 居場所づくり		
食を通じたつながり	働くことを通じたつながり		
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

多世代	☆	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	★	ひとり親世帯	単身世帯	☆ 不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	☆ 生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	これまで当団体では、地域の公民館等を借りて活動をしていたが、会場を定期的に借りることが困難な上、利用したい人が利用したいときに利用できない、会場が狭い等の課題があった。そこで、広めの会場を借り、そこを拠点とすることで、活動の場所を1か所に集約し、365日いつでも活動できるようにした。
対象とした人	周りに目を意識することなく対象者が来られるように、『赤ちゃんから高齢者まで誰でも来れる』というモットーに掲げた。特に、ひとり親、生活困窮家庭、不登校のこども、放課後に居場所がないこどもを対象にした。
内容	【フードドライブ・フードパンtry・制服バンク】毎月第3日曜日に、リサイクル衣料、リサイクル学用品、リサイクル体操服、リサイクルおもちゃ等を並べて無償配布した。 【地域みんなの食堂・食事付き学習支援】放課後や夏休み等の長期休暇中に、宿題やドリル学習ができる場を設け、そこで昼食と夕食をおわり無制限で提供した。 【クリスマスイベント】ひとり親家庭の交流会で、誕生日月のこども向けに誕生日会を開催し、絵本のプレゼントをした。12月は、NPO 法人チャリティーサンタ大分支部の協力でサンタクロースを招き、クリスマスプレゼントとクリスマスケーキこどもたちに提供した。

(2) 取組の成果

連携した団体	大分市教育委員会・ソーシャルスクールワーカー（支援が必要な家庭の紹介）、大分県社会福祉協議会ファンドバンクおおいた（ひとり親や生活困窮世帯への食材支援等の物資の提供）、一般社団法人ライフカドル協会（困窮者への生活支援）
対象とした人とつながるために行った工夫	チラシの新聞折り込みやポスティング、近隣の教育機関へのチラシ配布等を実施した。季節のイベント（例：夏祭り・ハロウィンパーティー・クリスマスパーティー・年末お楽しみ会）を実施し、はじめて来る人でも参加しやすいような環境を整えた。 対象者のみを集めたグループ LINE での発信をして、支援を必要としている人たちが SOS を出しやすいようにした。
定性的な成果	対象者が定期的に参加する機会が増えたことで、仲間ができ、縦横斜めの関係性が作られてきた。回数を重ねるごとにお父さん、お母さん、子どもたちの表情も明るくなり、支援されるだけではなく、自分にできることや得意なことで団体の手伝いをしてくださる方も増えてきた。
定量的な成果	今年度は活動拠点を賃貸契約したので、365 日いつでも対応できる運営を目標に活動した。日によって来場人数にはらつきはあったものの、毎日利用者があった。いつでもオープンしているという口コミが広がるにつれて、スマートフォンやインターネット環境がない人にも情報が届き、利用できるようになった。 また、支援を必要とするひとり親家庭や生活困窮世帯とつながることができた。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	NPO 法人 子育て応援ワクワクピース
代表者	理事長 漆間 文代
設立年月日	2013 年 4 月 22 日
スタッフ数	10 人
団体住所	大分県大分市木上 77 番地の 1
ウェブサイト	https://wakuwakupiece.net
メッセージ	今後も活動を発展継続できるようにしたいです。孤独・孤立対策を行う団体が日本全国さまざまなエリアで必要になってくると思うので、各団体が個々で活動するのではなく団体同士が連携をとり、情報交換をし、縦横斜めの関係性を築くことで、小さな団体も今よりもっと支援を必要としている人を助けられると思います

団体名：特定非営利活動法人 カーサグランデ

取組地域：宮崎県 宮崎市

取組名：多様な事業と動物とのふれあいで創る世代間コミュニティ事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供	☆ 居場所づくり		
食を通じたつながり	働くことを通じたつながり		
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築		
情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援		
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備		
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築		

取組の対象

★ 多世代	☆ こども・若者	中高年者	☆ 高齢者	☆ 障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
☆ 子育て世帯	☆ ひとり親世帯	☆ 単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	☆ 生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	イベントを通じた交流の機会やつながりを感じられる場を提供し、地域の方々が自然に声をかけやすく悩みを相話しやすい環境を構築する。また、支援を必要とする方々が孤立せず安心して日常を過ごせるよう、多機関の協力体制を強化し支援の継続性を確保することで、包括的かつ迅速な支援を継続的に提供することを目指す。
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

対象とした人	・ こども・若者 ・ 子育て世帯 ・ 一人暮らしの高齢者 ・ ひとり親世帯 ・ 障害者 ・ 生活困窮世帯
内容	・ 夏祭り：会場の装飾や模擬店の準備を行い、祭りの雰囲気を感じ、生きがいを感じていく等 ・ 日帰り旅行：お小遣いを使って、自分で好きなものを選び購入する喜びの機会を提供する等 ・ アニマルセラピー：動物と一緒に散歩に行くことでリラックスし、一人ではないと心の安定を図る等 ・ 交流会：準備から関わることで、コミュニケーションがうまれ、日常の何気ない会話を通じて人とつながりや温もりを感じる場とする ・ クリスマス会：自由に表現できる場を提供し、自己表現の機会を増やす等 ・ 餅つき大会：作ったものを分かち合うことで、共に過ごす喜びを感じる機会を提供する等

(2) 取組の成果

連携した団体	訪問介護、訪問看護、不登校支援、動物愛護及びフードバンクを行う支援団体と必要に応じてミーティングを行い、支援が必要な方の状況を共有し、適切な支援策を検討した。特に複数の支援が必要なケースでは、担当者間の連携を強化し、スムーズな支援を心掛けた。
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係の構築を重視：親身な対話からスタートする、「挨拶」や「偶然を装った会話」を積極的に活用する ・日常生活の中での接点を意識：対象者の関心や趣味を尊重する、自然な誘いかけをする等 ・つながり続けるための仕組みを作る：継続的な自宅訪問・電話相談の実施、「支援」ではなく「見守り」として関わる等
定性的な成果 定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・連携委員会：関係団体 6 団体（不登校の生徒の親子を支援する団体、精神障害者や高齢者等を対象とした訪問看護ステーション 2 団体、訪問介護ステーションを実施する事業者、動物愛護に取り組む団体及びフードバンクを実施する事業者）の参加を得る ・夏祭り：参加者 104 人（関係団体 6 団体含む） ・アニマルセラピー：参加者 29 人（3 回実施合計） ・交流会：参加者 67 人（3 回実施合計） ・日帰り旅行：参加者 26 人 ・クリスマス会：参加者 33 人 ・餅つき大会：参加者 37 人 <p>定性的成果：事業開始以前は、人との関わりを避け、誰も信じられないといった様子で話すことすら難しかった方々に心の安定が生まれ、自己肯定感の向上、人とのつながりを持つことへの前向きな気持ちが育まれていった。日常生活においても意欲が増し、生活の質の向上につながっている。</p>

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 カーサグランデ
代表者	深見 優子
設立年月日	2015 年 10 月 2 日
スタッフ数	12 人
団体住所	宮崎県宮崎市清武町木原 413 番地 1 カイルアビルⅢ 103 号
ウェブサイト	現在休止中（新規で立ち上げ準備中）
メッセージ	本事業を通して、子育ての悩み、一人暮らしの不安、誰にも言えなかった困りごと等、様々な声が寄せられました。それらを拾い上げ、関係団体と連携し、1つ1つ少しずつ解決へと導きました。「また計画してくれる？」と楽しみに待つ声が私たちの原動力です。今後も、さらに多くの方の笑顔につながるよう全力で取り組んでいきます！

団体名：特定非営利活動法人 フェリーチエ

取組地域：宮崎県 日向市

取組名：地域のつながりサポートプロジェクト

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供	☆ 居場所づくり		
☆ 食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

多世代	★ こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	☆ 不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	☆ 生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	定期的なコミュニティイベントや交流会等を通じて、地域の一員として誰もが居場所を持ち、「大切にされている」と感じができる環境を作りたいと考えていた。そこで、地域のこども達を中心に、本事業によりコミュニケーションを増やすこと、また体験活動を提供し新たな活動へのきっかけ作りを行うことを目的に本事業を実施した。
対象とした人	こども、子育て世代、不登校のこども、困窮家庭のこども、保護者を対象とした。
内容	<ul style="list-style-type: none">こども・子育て世代：プレーパークやスポーツ等、『楽しい』を前面に押し出した活動を開催した。プレーパークでは、薪割や火起こし体験、焼き芋等、地域の方々の協力を得ながら各種活動を実施した。不登校のこども・困窮家庭のこども、保護者：体験格差の解消として『サークル』を訪れた。みんなで行くことにより、楽しいだけでなく友達とのつながりも強くなった。映画の鑑賞会を計画し、その後、鑑賞した方々による声で「こども食堂」を開催した。

(2) 取組の成果

連携した団体	地域の市民団体（日向子ども研究所絆）の協力を得てこども食堂、映画鑑賞会や体験活動を実施した。地域のこども食堂(コパン屋、鉢島)、同じく孤独・孤立に取り組むNPO団体、居場所づくりを行う社協、行政の活動にも参加した。地域での課題解決に取り組む『ひまわり塾』で知り合った方々とも今後連携していきたい。
対象とした人とつながるために行った工夫	映画の鑑賞会を地域の市民団体と一緒にすることにより、多方面の方々に声かけができた。その中で声が上がり、プレーパークやこども食堂を中心とした活動が行われた。 活動を口コミ、SNS等で知り、見学に来てくれる方がいた。行政の方も顔を出してくれるようになった。 参加してくれた方の好評を得て、つながりが生まれ続けている。コツコツと地道に活動していくことの必要性を改めて感じながら、常に新しいことを取り組む姿勢を大切にしたい。
定性的な成果 定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレーパーク：普段あまり集まらなかった公園に、毎週 50 人近くのこどもが集まるようになった。またこども達の関わりも少しずつ変化が見られており、改めて地域コミュニティの必要性を感じている。 ・ 体験事業：よりこども達との関係が強くなり、会話が増えた。少しずつこども達との距離感も近づいた。一緒に食事を作ったり、体験活動を通して、今後さらに関係を作っていくたい。 ・ 地域コミュニティとして休日に行うイベント：数名から約 15 名と関わる人数が増加している。平日の関わりをどう増やしていくかが今後の課題である。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 フェリーチェ
代表者	河内 潔
設立年月日	2023 年 9 月 15 日
スタッフ数	10 名
団体住所	宮崎県日向市亀崎 2 丁目 32
ウェブサイト	https://npofelice.com/
メッセージ	今後も孤独や孤立感を抱える方々の支援と共に、包括的なケアを提供していきたいと思います。個々の声に耳を傾け、共感し、支え合うコミュニティを育み、未来を明るくするために皆さんと共に歩んでいきたいです。誰もが居場所を見つけ自己を認められる社会の実現に向けて努力し、より包括的で支え合える未来を築いていきましょう。

団体名：特定非営利活動法人 かごしまヤングケアラー支援ネットワーク

取組地域：鹿児島県 出水市、日置市、鹿児島市、曾於市

取組名：薩摩の“おせ”から“ちご”へ文化伝承の多世代交流“かごつま弁サロン”

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供		居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

★ 多世代	☆ こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	地域共生社会を実現するためには、多様な新しいチャンネルを通して全ての人に「つながり・支え合い」を創出することが重要である。そのためのチャンネルに“かごつま弁”を使い、生まれ育った郷土に愛を持ちながら、自身の自慢の土俵でつながりを持ち、かつ続けることが大事だと考えた。
対象とした人	都市周辺部の高齢者やひとり親家庭の多い地区を対象とした。老人クラブや地域の高齢者学級等で地域の人と交流することの少ない人を対象とした。同地区の小学校にお願いして主にひとり親の家庭のこどもを主体に参加してもらった。
内容	高齢者の持つ鹿児島の伝統的な行事のノウハウを引き出し、こどもたちに伝授する活動を行った。 ①かごつま弁教室：残していきたいかごつま弁協会の講師によるかごつま弁の歌“花いちもんめ”が好評だった。こどもたちによるかごつま弁劇も行った。 ②鹿児島に古くから伝わる“なんこ遊び”を高齢者の指導の下、こどもたちと高齢者の対戦形式で実施した。 ③茶会体験：出水地区に古来伝わる伝統形式の作法等を高齢者がこどもたちに指導した。初めて抹茶を飲んだこどもたちからは喜々とした声が広がった。指導した高齢者からも生きがいづくりにつなげたいとの声をいただいた。

(2) 取組の成果

連携した団体	大川内小学校、地区公民館、老人クラブ、伊集院こども食堂、介護センターゆらり、NPO 法人いきがいづくり支援センターチロリン村、NPO 法人 HASU（独居高齢者の参加勧誘）、NPO 法人児童クラブスマイル（一人親のこども参加勧誘）、NPO 法人優美会、NPO 法人高岡の風
対象とした人とつながるために行った工夫	孤独・孤立の高齢者は、公民館や自治会等の活動にも参加しない、又は消極的な人が多かったが、自治会や地域の高齢者クラブとの連携を深めて積極的に声をかけてもらうことで、大人数を集めることに成功した。地域には、高齢者の文化、芸術、スポーツ活動等を行う団体が多く存在する。これらの人々をどう巻き込んでいかが課題であり、成功への第一歩と考えて取組を行うことで多様なバックグラウンドの高齢者と子どもが交流できた。
定性的な成果 定量的な成果	<p>中心部から離れへき地と言われている地区の高齢者に外出の機会を与え、地域の方々との親交、町の人とのふれあいの機会の創設により、地域活動への高齢者の参加数が増えたと評価を得られた。訪問介護やデイサービスの職員で本事業の担い手になってもらった方々から高齢者がいきいきとなったと好評を得た。一方、最終的には地域の高齢者支援、地域おこし、子育て支援、文化継承の NPO 法人の全面的支援が得られたが、行政からの支援が少なく、課題と考える。</p> <p>居場所・交流の場での取組の実施結果（定量的）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①取組の実施回数…4 地区 4 回計 16 回 ②担い手の数…80 人（総計） ③参加者の数…608 人（総計）

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 かごしまヤングケアラー支援ネットワーク
代表者	理事長 山方 博文
設立年月日	2011 年 2 月
スタッフ数	14 人
団体住所	鹿児島県鹿児島市新屋敷町 16 番公社ビル 215 号協働オフィス
ウェブサイト	http://k-ycsn.org
メッセージ	孤独・孤立対策の成功のカギは、いかに対象者を把握し、仲間づくりに巻き込むかであると思う。地域の NPO、老人クラブ、高齢者の趣味・スポーツクラブ、地域公民館、更に行政と連携して支援の輪を広げ、ソーシャル・プラットホームを組成していきたい。

団体名：社会福祉法人 おきなわ長寿会
取組地域：沖縄県 沖縄市
取組名：ケアサポーターネットワーク活用事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆ 交流の場の提供		☆ 居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
☆ 地域の包括的見守り体制の構築		☆ アウトリー型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
☆ ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
☆ 買い物支援や移動支援サービスの提供		☆ 空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
★ 地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

多世代	☆	こども・若者		中高年者	★ 高齢者	☆ 障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ
☆ 子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯		☆ 不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		☆ 生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人		支援者支援

(1) 取組の内容

目的	「地域活性化につながり生活が豊かになる」と地域住民が感じられることを目標に、以下 1~3 の実現を目指した。 1.地域住民・高齢者の自助と共助を高める 2.買物難民・移動難民に対する具体的な課題解決を図る 3.地域の包括的見守りネットワークを構築する
対象とした人	地域に住む高齢者、次世代を担うこどもたち、子育てをしている方など
内容	①介護予防教室（3ヵ所×各月2回）：高齢者が交流・介護を予防できる居場所の提供 ②見守りサポーター養成講座（月1回）：域住民・ボランティアと事業所が共に学び、情報交換できる場の提供 ③出前講座（随時 職員派遣調整）：法人内の専門職を出向させる勉強会の開催 ④介護（家族）等リフレッシュ事業：フリーマーケットの開催 ⑤移動支援事業：自治会及び社会福祉協議会と協力した買物支援の車両・運転手の提供 ⑥見守りサポート事業（仮）：ICTによる地域の高齢者の見守り体制の構築を検討 ⑦福祉の担い手育成を目的とした体験実習等の積極的な受け入れ

(2) 取組の成果

連携した団体	沖縄市北部圏域 5 自治会、地域サロン、民生委員、老人会、サークル、婦人会、薬局、郵便局、民間企業、地域包括支援センター、市役所（各課）、障害相談支援事業所、子どもの居場所、消費者センター、中部地区医師会、社会福祉協議会：情報提供や本事業の紹介、運営の協力を仰いだ。
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> 対象の方が集まるところへピンポイントで案内（フライヤーの設置）をした。 相談支援機関や窓口へ本事業の紹介を依頼する等、協力を得た。 民間企業や一般の方の福祉への抵抗感をフリーマーケット等のイベントを開催することで払拭し、本事業に関わる方の幅を広げた。
定性的な成果	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防教室：「送迎によって、社会参加できるようになり生活の中で楽しみができた。」との感想を得た。病院と貢物以外に外出の機会がない、経済的な不安もある、自治会未加入のため地域との付き合いがなく楽しみがないと言っていた方（自治会との関わりに引け目を感じている方）も、当法人で活動をする事で引け目なく参加できた。
定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> 見守りセンター養成講座：継続した勉強会や情報交換会を行う事で、センター同士のつながりができ、センター自身のスキルアップに伴い地域力もアップした。各地域の行事やイベントが活発に開催されるようになっている。高齢者だけではなく、子どもや障がいのある方のいる世帯等、すべての世帯に当てはまるような見守り活動が推進されている。 フリーマーケット：作る楽しみと社会参加のきっかけとなり、「とても勉強になった」「また参加したい」と意欲向上につながった。また、入所者をはじめ通所サービス利用者・家族の交流の機会となった。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	社会福祉法人 おきなわ長寿会
代表者	理事長 与那城 宗道
設立年月日	1999 年 4 月 30 日
スタッフ数	127 人（常勤職員 98 人、パートタイマー 29 人）
団体住所	沖縄県沖縄市字登川 1403 番地
ウェブサイト	https://www.chojyuen.com/
メッセージ	課題と思われることに対する取組について共通理解を得るには時間がかかり、活動を運営する時は大変な課題を目の当たりにすることもあると思います。取組によって救われている方、支えられている方々がいるのであれば、ぜひ継続できるよう、そして取組を一般化できるよう進めていただきたいと願います。共にがんばっていきましょう。

団体名：特定非営利活動法人 まくとうー

取組地域：沖縄県 うるま市、恩納村

取組名：地域で助け合う緩やかなつながりを築く居場所づくり

取組の種類

1. つながりの場づくり	
	交流の場の提供
☆	食を通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築	
	地域の包括的見守り体制の構築
	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援	
	ワンストップ相談窓口の設置
	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組	
	買い物支援や移動支援サービスの提供
5. NPO 等の活動支援・連携強化	
★	地域の NPO 等への支援
	官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

★ 多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	☆ ひとり親世帯	☆ 単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	地域の問題等を解決する地域コーディネーター・ソーシャルワーカーの意識の向上や、相談しやすい、困りごとを発信しやすい環境の整備を目的とする。
対象とした人	ひとり親家庭とそのこども達、地域の独居高齢者、学校、スクールソーシャルワーカー、行政、社会福祉協議会、地域ソーシャルワーカー等を対象とした。
内容	地域自治会の協力により、地域の方々（特に高齢婦人等の参画）への食を通したフードパンtries事業やアンケート調査等を実施した。 地域の方々による高齢者等への食材等配布活動等を実施した。 ひとり親等への食材等配布や、個人（外国人等）からの個別相談等もお受けし、関係機関へつなげた。 行政や社会福祉協議会の職員、地域ソーシャルコーディネーター等の意識向上のための研修を開催した。

(2) 取組の成果

連携した団体	特に地域自治会と連携した。次の関係機関には当法人の活動に賛同をいただき、更なる関係強化ができた。
協力いただいた団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ うるま市こども未来部こども政策課 ・ うるま市社会福祉協議会 ・ うるま市母子寡婦会 ・ 恩納村福祉課母子保健係 地域福祉係 高齢者福祉係 ・ 恩納村福祉課 ・ 恩納村社会福祉協議会 等
対象とした人とつながるために行った工夫	<p>母子家庭の母親からの声を多く聴き、活動を計画した。</p> <p>母子自立支援等では、根気よくアンケート調査等を行い、細かい内容にも最新の注意を払い、悩み事かどうか等の聞き取り調査等を行った。高齢者対策では、地域自治会等との協力により、独居高齢者等へ今まで以上に（地域の方々が）アプローチできるようになり、孤独・孤立対策が強化された。</p>
定性的な成果 定量的な成果	<p>2025年1月に行政、社会福祉協議会等の職員への孤独・孤立対策研修会を開催したことで、行政等関係機関の意識向上を図ることができた（研修参加者は20人）。</p> <p>研修会前は、孤独・孤立対策に関する関係者の意識がそれほど強くないと感じていたが、研修後は次年度以降の活動等について行政からも声をかけていただけるようになった。</p>

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 まくとう
代表者	代表理事 市原 信行
設立年月日	2022年12月1日（任意団体設立） 2023年4月27日（NPO法人認定）
スタッフ数	常勤2人 非常勤3人
団体住所	沖縄県うるま市石川曙 3-12-43
ウェブサイト	https://makutoo.jimdosite.com/
メッセージ	孤独・孤立対策は多方面からの協力や協働が必要であり、共に考え活動していくことが重要だと思います。そのためにも、次年度以降もより有効な活動を試み、関係機関との連携のもと、しっかり活動計画を練って継続的に活動していきたいと思います。



内閣府孤独・孤立対策推進室

令和7年12月発行

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1 Tel. 03-3581-4537